

五五七六

赤心秘書

三

第十一門

品目	製	費	第一
年月日	昭和	年	五
場所	日	月	号

399  
イ  
1-3





赤心秘書第二目録

- 一 松平右近將監殿御旗本名武藏守久三事
- 一 抜群者有少少也史と名に一人少事
- 一 山内忠久事
- 一 五十人組水堀古より論絶古利了事
- 一 揚火合圖方角道老より少列事
- 一 決地利害常々警古心海事
- 一 出浪引軍海道中行列少事
- 一 兵法雄鑑事
- 一 出浪山纏事

A399  
1  
1-3

A39  
1  
1-3



一 行軍心術事

一 出張之山田河東幕張出陣事

一 出張之名人救之小尾割事

一 高須津原居替并尾割山城下要害山傷事

一 出張之山田河東幕張出陣事

一 出張舟方角之遠河軍之聖救百達事

一 出張舟一陣二將之立成事

一 出張舟小尾丸走事

一 吳渡之山田河東幕張出陣事并惣兵宿願動別

志長別志長武術事

一 尾割山城下兵宿之唐和木戸發湯事

一 尾割山城下山田河東幕張出陣事

一 天下之山田河東幕張出陣事

一 恩召山城國山田河東幕張出陣事

一 中下松林山田河東幕張出陣事

一 中下武士山田河東幕張出陣事

一 枇杷橋橋事

松平右と相違及出旗中丸と武蔵右丸と

一 前、江戸表出旗中丸武蔵右丸と  
之より、時、出旗中松平右進相違及出旗中  
出旗中丸と武蔵右丸と  
其の、出旗中丸と武蔵右丸と  
密に、出旗中丸と武蔵右丸と  
右、自、年、人、物、形、動、切、或、人、不、足、可、也、右、出、旗、中、丸、  
之、余、皆、出、旗、中、丸、と、武、蔵、右、丸、と、書、出、旗、中、丸、と、書、出、旗、中、丸、  
出、旗、中、丸、と、書、出、旗、中、丸、と、書、出、旗、中、丸、と、書、出、旗、中、丸、  
右、出、旗、中、丸、と、書、出、旗、中、丸、と、書、出、旗、中、丸、と、書、出、旗、中、丸、  
出、旗、中、丸、と、書、出、旗、中、丸、と、書、出、旗、中、丸、と、書、出、旗、中、丸、

石丸、建後、為、事、之、者、  
少、も、高、ま、り、  
清、く、高、ま、り、  
其、地、  
或、出、馬、  
物、  
上、  
是、  
也、

何、  
二、  
吐、  
石、  
能、  
弟、  
折、  
多、  
也、  
也、



無他其者もて者くはまき西段人方より実の事候事  
 以故皆く志す所候事多く之界之氣を合じし候者も志  
 を得ん事と候事者も此の事人くは候事者も此の事  
 用ひ候事謀用之に戸の事候仲の事候は事候事  
 幸ひの事候事候事候事候事候事候事候事候事候事  
 多く事候事候事候事候事候事候事候事候事候事  
 并候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事  
 以故之候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事  
 候事人候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事  
 一事も候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事

事候事と抱軍之勝利と候事之國の事候事君約の候事  
 冠之候事遣人候事候事候事候事候事候事候事候事候事  
 事候事大難と候事候事候事候事候事候事候事候事候事  
 候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事  
 用之候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事  
 候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事  
 候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事  
 今之人候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事  
 候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事  
 候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事  
 候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事

新和佐列を治りて  
法より治りて上を治りて  
出づる指節は横の如く  
の跡の如く  
去本文武の世は有實  
武百世に漢定市は儒  
少は  
系由を六代外は後  
名人有他流は如く  
江戸(東)の結本居  
方より治りて  
二并跡の如く本文武  
老六名人トテ世世  
皆和列の如く治りて

少治を治りて多治を果すは西南北も此下より治りて  
化を治りて治りて如く西南北も治りて  
本治りて治りて治りて有人は西南北も治りて  
市より治りて治りて治りて治りて治りて  
有志とて治りて治りて治りて治りて治りて  
治りて治りて治りて治りて治りて治りて  
二男之男如く治りて治りて治りて治りて  
非者治りて治りて治りて治りて治りて  
多し治りて治りて治りて治りて治りて  
も治りて治りて治りて治りて治りて

名に治りて治りて治りて治りて治りて  
(和)の治りて治りて治りて治りて治りて  
村或は治りて治りて治りて治りて治りて  
人を治りて治りて治りて治りて治りて  
中治りて治りて治りて治りて治りて  
其人に治りて治りて治りて治りて治りて  
是を治りて治りて治りて治りて治りて  
治りて治りて治りて治りて治りて  
事なく治りて治りて治りて治りて治りて  
此も治りて治りて治りて治りて治りて







為勵多し、いかにぬとの、非帯、多し、考、成、上  
く、大、事、と、言、う、元、有、ら、け、事、も、た、く、て、是、等、に、  
懸、能、く、有、士、禱、と、悟、ぬ、り、古、書、も、多、有、り、士、  
懸、に、任、色、西、城、く、言、信、作、り、と、言、入、り、上、て、後、  
く、懸、ひ、と、言、入、り、り、同、事、と、け、事、為、れ、上、  
西、大、事、と、指、し、懸、に、け、武、も、り、事、終、成、り、  
有、り、と、言、ゆ、又、西、大、事、と、言、り、一、年、七、百、年、或、  
多、石、金、計、に、成、り、運、吏、と、言、揚、り、向、西、大、事、と、言、ぬ、物、と、  
言、り、公、た、り、故、に、西、軍、用、と、言、り、者、に、其、事、と、言、り、  
事、如、只、指、細、成、信、と、言、り、と、有、り、言、ゆ、

六十人組水船古より八陸軍に利て有る事

一 六十人組是と云水船古より信守と城門前下河  
銀五十二石と云、如、夏、何、也、も、水、船、古、は、信、守、と、  
船、と、名、の、水、船、も、有、り、鴨、と、と、言、り、其、は、信、守、と、  
付、中、と、云、金、船、五、十、人、と、言、り、信、守、と、水、船、古、と、事、系、那、  
西、大、事、と、言、り、元、十、石、と、言、り、信、守、と、言、り、如、教、と、言、り、出、て、  
切、等、と、言、り、十、石、と、言、り、信、守、と、言、り、如、教、と、言、り、  
有、他、院、柳、山、他、と、言、り、信、守、と、言、り、如、教、と、言、り、  
言、り、一、と、言、り、信、守、と、言、り、如、教、と、言、り、  
事、と、言、り、用、と、言、り、信、守、と、言、り、如、教、と、言、り、  
丁、白、と、言、り、切、等、と、言、り、如、教、と、言、り、  
新、書、時、分、後、事、統、緒、と、言、り、如、教、と、言、り、  
信、守、と、言、り、水、船、古、と、言、り、如、教、と、言、り、



海軍向一帯、形次第、少、概作百艘、後、本年、  
、今、六月、年、末、七月、十一、日、大、風、と、雨、頗、分、浪、高、新  
田、百、艘、部、人、名、古、屋、(舟、系、る、買、物、と、系、集、田、に、夜、已、松  
、市、と、出、た、と、大、風、と、波、高、人、た、命、を、船、と、推、内、船、破、損  
、等、一、大、風、の、浪、は、山、と、い、く、波、高、は、丈、を、浪、取、流、地  
、流、り、流、は、は、武、人、を、大、也、浪、高、者、も、と、い、い、者、と、い、  
、軍、用、の、水、係、も、出、用、い、ぬ、り、出、用、に、立、上、り、は、城、川  
、色、派、下、位、に、候、ま、川、と、白、樫、古、は、直、り、も、中、く、大、事、  
、軍、用、の、留、合、司、に、那、と、い、上、り、出、た、り、と、い、  
、中、人、程、陰、と、營、を、波、の、如、く、候、付、り、ぬ、と、い、候、

揚火合國火の百遠を云ふ所の事

一 出、浪、亦、出、智、も、有、る、所、付、合、司、の、揚、火、亦、矢、田、河、東、の、  
有、る、中、洞、鶴、早、市、り、礼、早、松、と、松、と、名、有、り、候、  
成、村、の、成、以上、大、杯、と、中、事、浪、高、相、お、合、事、松、と、松、  
は、大、の、何、里、程、と、い、ふ、と、中、事、と、夫、と、何、程、と、い、候、  
知、多、那、と、山、之、尾、人、と、名、と、七、里、程、と、い、候、  
あ、げ、く、矢、田、河、東、の、上、に、揚、火、は、は、る、と、い、  
余、り、も、亦、出、役、人、方、も、部、内、中、津、津、と、い、候、松、と、松、  
揚、火、の、合、司、と、中、事、と、遠、近、と、松、中、と、い、候、  
ま、は、た、の、ろ、と、い、候、と、い、候、と、い、候、と、い、候、  
(き、小、甘、キ、火、は、不、足、の、如、く、何、里、と、七、里、と、い、候、)

燒多夜又、家、院、中、外、合、馬、火、の、事、の、由、付、合  
馬、火、の、中、の、事、實、に、相、軍、林、の、付、事、に、由、り、事、に、由、り、  
此、一、由、武、の、事、付、返、付、林、の、用、も、之、の、事、に、由、り、事、に、由、り、  
之、事、に、由、り、事、に、由、り、事、に、由、り、事、に、由、り、事、に、由、り、  
中、の、事、に、由、り、事、に、由、り、事、に、由、り、事、に、由、り、事、に、由、り、  
事、に、由、り、事、に、由、り、事、に、由、り、事、に、由、り、事、に、由、り、  
以、付、事、に、由、り、事、に、由、り、事、に、由、り、事、に、由、り、事、に、由、り、  
之、心、も、散、れ、事、に、由、り、事、に、由、り、事、に、由、り、事、に、由、り、  
物、束、も、大、事、に、由、り、事、に、由、り、事、に、由、り、事、に、由、り、  
武、の、由、り、事、に、由、り、事、に、由、り、事、に、由、り、事、に、由、り、

大、法、院、の、事、に、由、り、事、に、由、り、事、に、由、り、事、に、由、り、  
揚、火、も、天、正、年、中、今、以、り、事、に、由、り、事、に、由、り、事、に、由、り、  
中、根、も、山、崎、大、本、に、由、り、事、に、由、り、事、に、由、り、事、に、由、り、  
之、事、に、由、り、事、に、由、り、事、に、由、り、事、に、由、り、事、に、由、り、  
一、款、寄、せ、事、に、由、り、事、に、由、り、事、に、由、り、事、に、由、り、  
と、打、防、く、事、に、由、り、事、に、由、り、事、に、由、り、事、に、由、り、  
終、く、揚、火、と、事、に、由、り、事、に、由、り、事、に、由、り、事、に、由、り、  
事、に、由、り、事、に、由、り、事、に、由、り、事、に、由、り、事、に、由、り、  
も、有、り、事、に、由、り、事、に、由、り、事、に、由、り、事、に、由、り、  
竹、付、り、事、に、由、り、事、に、由、り、事、に、由、り、事、に、由、り、



肉(大)は粉(多)も吹(付)り如(成)り光(中)方(若)年(分)  
元(四)目(好)流(日)付(道)は(何)も子(枕)地(と)白(虫)の(心)原(家)  
有(る)小(金)高(約)米(高)子(付)と(老)進(く)多(列)心(故)く  
て(能)用(成)る(多)高(約)米(と)し(て)も(の)も(昔)言(を)  
近(と)言(を)し(て)能(何)登(貝)陣(向)く(巡)り(七)八  
町(十)町(と)大(飯)又(支)り(も)き(種)又(老)方(も)  
安(下)も(是)も進(退)掛(引)用(る)証(古)飯(小)サ(り)又(町)  
八(所)も(安)下(安)く(或)本(陣)を(並)合(高)用(る)種(も)  
全(寺)く(約)種(も)く(如)命(く)大(飯)も(寺)く(入)キ(を)る  
大(飯)用(る)故(く)種(も)大(飯)も(以)つ(て)違(る)違(る)事(也)

加(常)能(能)心(故)と(く)一(並)れ(能)難(く)根(據)し(て)  
以(つ)も(根)々(煮)と(言)ね(能)る(種)々(と)大(飯)の(為)に(安)と  
行(く)や(く)と(言)ふ(も)一(も)本(里)也(或)里(た)り(八)丈(も)及(一)  
或(二)丈(也)之(安)も(句)也(一)寸(の)故(も)又(里)寸(里)十(里)も  
及(少)之(之)意(乎)の(如)故(家)大(寺)山(大)寺(付)て(合)  
高(約)米(と)言(を)し(て)是(の)ろ(ろ)一(義)傳(く)例(く)大(舞)  
と(用)す(は)何(舟)市(火)と(言)く(家)く(と)焼(く)事(有)ら  
本(方)之(合)言(は)違(能)難(大)寺(か)と(言)へ(不)中(の)根  
煙(揚)火(老)と(く)心(故)言(く)も(好)は(此)揚(火)と(言)付  
実(は)花(火)の(山)家(一)故(下)を(違)ひ(大)寺(の)故(八)町(ハ)



昔よりある数々之事業に因りて及人死軍用ニ寄ること

うと及所ニ就ニ毒成りしも多クハ

一 決地 利害常ニ相立ルハ決地ニシテ

打中より下ニ付不付ノ漏漏致ハ是又軍用ニ寄

身入テ考テ及ノ及人者多ク決地ニ相立ル

上ニ及所ニ及ノ及名古知ノ決地ニ及人

能打ノ及ノ常用ニ淋子ノ相立ル決地ニ及

其利ノ及ノ建也百目ノ決地ニ及所

城内より打出ノ個法ニ及ノ及所今ノ及所

園ノ及所及ノ及所人及所ノ及所

田ノ及所百目ノ決地一揆有ク是也小園ノ及所  
無与打拂少少ハ福高正則ノ及所十七人打中  
傳ノ及所利ノ及所六用ノ及所知前也  
持与能及所及所及所決地ニ及所及所  
ノ及所傳ノ及所玉葉ノ及所用拾又一放打中  
之及所利有ク百目ノ放打中ノ及所  
利有ク及所及所及所大筒ノ及所用  
ノ及所及所及所及所及所及所及所  
園ノ及所及所及所及所及所及所及所  
及所及所及所及所及所及所及所

ひのきまゝなり箇針何百千程出けし石中（交代寺合衆）  
より取り可成り江戸（幸）より御子治身取控の如  
との西より方是の事あり古き者く中傳松尾山下  
筆市中納之重切付西の方人数多くと地入  
なれぬと申傳之時は此所絶死路と申す  
所出ると見んと思指すありは此大筒一丁打  
もなくと云ふありは此所は是も絶死路と申す  
此方も是の師匠の絶死と申すといふ事  
申すもなれも此も絶死と申す打つては建も拾  
丁計拾五丁と云ふ歌と打つ事も非ぞ又大筒

く世間と申すは絶死の行軍に武の河又と申すも是  
の所を流場市人教押ゆ一戦及少の絶死と申す  
此の世間と申すは自難れと申すは此の國を京に  
時より大筒と申すは絶死と申すは河のなれぬ  
事く持當りぬと申すは此の軍なれぬと申すは此  
者と同しと申すは此の絶死と申すは此の事  
今百目此百目と申すは此の絶死と申すは此の事  
名用と申すは此の絶死と申すは此の事  
此の絶死と申すは此の絶死と申すは此の事  
是より東の方の絶死と申すは此の事

少子習中傳り少利と他四段人一方の幼者も  
百日試目より何者目と中初大首或は若仕掛  
物々々々少利他物々々々行方成三有物只武  
具若用不仕る後ハ系懸掛と指又襖靴一日指  
なく他物少利若々付々々大指少一有指環後  
少々初寄付肩の若々々度々度内を何返も  
なく意欲別子を指又出々々初の面白も有  
たまなるも意欲肩背も指り初々々々初  
後ハ少々初尚道不中初有欲と打少初在  
襖靴指あふ々々初大首一打出若初有初

能仕る初ハ少利と他四段人一方の幼者も  
少々初寄付肩の若々々度々度内を何返も  
なく意欲別子を指又出々々初の面白も有  
たまなるも意欲肩背も指り初々々々初  
後ハ少々初尚道不中初有欲と打少初在  
襖靴指あふ々々初大首一打出若初有初

今頃此處但如少一備打之者も有るは其相  
取之度は得矢之理其相備之者も是れ也  
若し其方も中是全後人之謝云と云ふは  
事之も是れ也其り射り事打も是れ也其り是れ  
軍之成敗將之揚る事也其り打も是れ也其り  
備之れも其り人々之麻後と打ぬに是れ也其り  
其り是れ也其り是れ也其り是れ也其り是れ也  
事之戒之也其り是れ也其り是れ也其り是れ也  
其り不礼也其り是れ也其り是れ也其り是れ也  
其り是れ也其り是れ也其り是れ也其り是れ也

初朱石は、東経より百打中より其角は嘉  
茶茶書付日光山言の初より其角は法信心格別  
出精は、西高純より東経より百打中より其  
其角 神居より其角一初より其角は法信心  
徳より其角は法信心の勵も成下り  
*出浪の軍神筆の初より其角は法信心格別*  
其角は、西高純より東経より百打中より其  
其角は、西高純より東経より百打中より其  
其角は、西高純より東経より百打中より其  
其角は、西高純より東経より百打中より其  
其角は、西高純より東経より百打中より其  
其角は、西高純より東経より百打中より其



細きも一列に居るは中へ一列あるは出  
張りの軍に習ひて先鋒中へ廣く居る  
馬と或は或は居るは中へ居るは  
人数と伸るは居るは人数と伸るは

兵法雄略

雄略六少系安房守成安

一 兵法雄略中十之七に習計内之定習は

軍に習ひて列陣に道天地相法と中へ居るは

一 備將の篇中へ

全書八山麻老の書

一 武教全書

一 武教全書一と習は常内習子吏者

備は列陣取意と定るは一之相法

方より定るは付くは方より轉化するは不能以列  
陣取るは中へ居るは中へ居るは中へ居るは  
習は先鋒の中へ居るは中へ居るは中へ居るは  
一 先鋒の中へ居るは中へ居るは中へ居るは  
人数と伸るは中へ居るは中へ居るは中へ居るは  
何れも伸るは中へ居るは中へ居るは中へ居るは  
一 先鋒の中へ居るは中へ居るは中へ居るは  
中へ居るは中へ居るは中へ居るは中へ居るは  
一 先鋒の中へ居るは中へ居るは中へ居るは  
何れも伸るは中へ居るは中へ居るは中へ居るは  
一 先鋒の中へ居るは中へ居るは中へ居るは



奉と依軍子敬不設ゆる、軍令之申行り、大軍一軍  
たれ、格別くふとて、おのれを、和漢を、西たが  
多し、小流、後河を、神君より、源敏柳、河段、  
河旗、本川、より、清泰、より、大坂、清陣、  
所、又、朝鮮、軍、付、秀吉、の、友、信、正、法、皇、孫、  
西、旗、下、の、何、れ、も、何、れ、も、威、勢、と、信、長、の、  
世、代、に、お、ま、り、も、清、泰、の、主、味、者、と、お、ま、り、西、人、物、  
物、方、河、旗、渡、り、清、泰、の、河、旗、自、立、り、受、合、  
ても、清、泰、の、主、味、者、と、お、ま、り、河、旗、軍、用、役、も、誰、に、  
奉、と、申、り、又、西、番、の、清、泰、の、事、心、付、不、り、年、竟、

実、至、私、未、し、西、人、救、を、い、防、敵、の、氣、も、か、り、  
り、敵、の、主、味、者、と、お、ま、り、西、人、救、と、い、  
世、代、に、お、ま、り、も、清、泰、の、主、味、者、と、お、ま、り、  
海、方、西、人、救、未、し、河、旗、の、主、味、者、と、お、ま、り、  
之、分、を、お、ま、り、申、候、火、事、付、し、る、河、旗、  
家、方、西、人、救、未、し、河、旗、の、主、味、者、と、お、ま、り、  
く、海、方、西、人、救、未、し、河、旗、の、主、味、者、と、お、ま、り、  
格、別、く、河、旗、の、主、味、者、と、お、ま、り、  
一、河、旗、の、主、味、者、と、お、ま、り、  
操、練、し、奉、能、調、り、大、將、思、候、お、ま、り、河、旗、  
習、政、は、先、一、日、の、河、旗、と、定、め、大、概、一、日、の、西、人、物、



少く二里半程の軍して之糧とほのせ支う  
取申す中は是の河原段に於て其の軍中  
に廣枝山坂川有石浜北山多き市敷松樹木  
し市寄更しくはく人救押し心持多き馬  
安た度き道なる二河も二河も河原も  
渡り人救し是にて渡軍とて人救押し  
河原の段と依ては各居敷成馬のばり  
用不有く是の列を難く法用中稠くは列  
入法馬とて士大將十知我中法士大將  
心持持りて橋へ合意し有るは合意川有

合意若欲く伏乞急に是に付合意河原も  
合意と不言して鳴りあはる侍人將軍も  
おれ成の廣場押出り軍より侍人法由  
之をいふや馬中り合意馬とて後馬より  
之ののこ又折敷合意成の折敷に成  
之を合意馬とて合意更なる侍人河原  
段し向し人救押し人救は渡り  
中知しは渡りし押し人救渡りし  
押し又しは押し人救は渡りし  
然る人救も我退除し押し人救も





小不及所例大言令凡大正雷氏元初後一海之  
根与之根以之會令言或定皆拍發于一路喰水皆  
也湯与吞て之云根喰一以皆も列く而凡の根  
の改事人何より与斯幕法と後以て一會令息不  
と事以常一習より獨之根分て之と不亦併の事  
由花中物く松平右京と更及武備のく事形  
不可代は 何身より道中修習電一高や中箱  
根山大井川も馬く一白義の根分右一湯百元り  
所要害く地何後少少少治もより中右何の事  
事より常く此非常く一以於於後人或付上事と色

大事と右京と更及上より一以於於後人或付上事と色  
時を以て思及以る事化より様出く一以於於後人或付上事と色  
不可一也是服も亦落く根分九の事以於於後人或付上事と色  
坊一玄園の事一右京と更及一以於於後人或付上事と色  
其より凡客皆一以於於後人或付上事と色  
体凡の製より以て六依以て事拍より一以於於後人或付上事と色  
及の懐中より焼服と云く一以於於後人或付上事と色  
懐中より様服と云く一以於於後人或付上事と色  
湯と出く一是又想人救懐中より一以於於後人或付上事と色  
水吞出く一湯と吞史より一以於於後人或付上事と色





家ありては士居りては名ありては家ありては棟ありては  
大人数と入るは仕る者入るもかたじけなく成るは  
語て居るはとむは六火災付退場も言は成るは  
角一士子ありては友居りては廣くは空虛  
も多かりては教も多かりては後も  
能くは人数之を知るも小人教なくは棟ありては  
も険阻く地形を用ひしは事智ありては古書  
も寡なりては険要ありては只少かりては地  
形も教も大人数九圍にぬれは地一とて大  
人数なくは小人教ありては廣くはとるは地形は

取(きり)りて古書に云ふも付は平易空居りて地形  
も多かりては小人教地形の分を能くは攻  
ちも難かりては地とては子に何百十の  
と取まるとは地形は角解に何百の何百坪と考へ  
或は角或斜と物ありては人数入りては地  
も多かりては地とてはありては度より多かりて  
出ると分とてはありては何ありては市と坪数は  
少かりては中(人)人数入りては多かりては坪  
上と坪と坪と見るとは坪馬とては坪と坪と  
九の人数とては大廻り(大)とては坪と坪とては大概

女言も入物を獲るは是言より救はるる  
件数多し人救も多し入件数少し人救も  
少しは是言より救をせしは理也又救も條也  
此言も救も多しは理自之也之言も救も少し  
理自之也昔阿耨多羅三藐三菩提人の子  
或捨人あり何事も或運まき而して阿耨多  
羅三藐三菩提子信法集く世而して矢次也  
事あり矢次也<sup>抄</sup>しは言易く折捨九節也事あり  
折しむ折るは不徳に付阿耨多羅三藐三菩提は是  
然るも只一節の折易く捨九節の折難く必見也

心法分ちて言へばなほ玉法其の家安かるる  
愛とま言へば是は救なりとも他を組た  
は孔の用にあはぬ人組より修む組合も救合御付  
まは格別法に修む業弱なる士といへば法云は他  
組合を致しむ付法なるの理能組て言割るも不  
之傷く言自之に成く欲く阿耨多羅三藐三菩提を  
能分救とて之を法に成く理も救有る也  
能少別して用は法と生じて自然と條目と  
くぬいづるめをさすもは修む用  
人救へ常に能改むと勵む能修むして事あり









此史の河原を此の善歌城の押詰と云根...  
 少の城國を此の善歌城の押詰と云根...  
 當此元三の少の善歌城...  
 神を人をもたずおろし...  
 下中...  
 中...  
 此...  
 此...  
 此...

成子...  
 本...  
 大...  
 此...

出...  
 此...  
 少...  
 少...  
 漏...  
 他...



出陣一陣二將（成り）

一 出陣一書以一領の十騎一士と指揮し、  
車はひたひた、可成方、遠く、おる、  
元人、日射、中、  
中、  
初、  
今、  
有、  
方、  
日、

軍一退へ、  
士大將、  
車や馬、

防、  
は、  
心、  
て、  
元、  
以、  
惑、  
下、  
馬、

害ありし

一 出治しほ 小屋こや 反ひら 疾はや 一いち 年ねん

出治者も小屋元之及而首信方此事方是  
反投少長也之是場不為業也不可之是成後此長  
之是行後也者之是又百達之是存後此長  
おん知多形也出治之是也此之是路もあはり  
之是事 容易之是之是之是之是之是之是  
成也成之是之是投少長之是之是之是之是  
收而難行也之是後之是之是之是之是之是  
所之是之是之是之是之是之是之是之是  
右之是之是後之是之是之是之是之是之是

此身白之也。おん小屋あり場不小屋之巡り也  
所據亦第之小屋元之及而首信方此事方是  
善之是也場不業也之是之是之是之是之是  
以治之是也之是之是之是之是之是之是  
之是後之是也之是之是之是之是之是之是  
之是之是之是之是之是之是之是之是之是  
之是之是之是之是之是之是之是之是之是  
之是之是之是之是之是之是之是之是之是  
之是之是之是之是之是之是之是之是之是  
之是之是之是之是之是之是之是之是之是  
之是之是之是之是之是之是之是之是之是





此分限横、幸拾巻、一月  
三十一日、其日、其事に  
之に、心、は、少、く、也、と、云、は、  
中、に、幸、成、因、一、事、と、云、は、  
一、事、書、り、し、も、他、に、は、少、く、  
事、中、に、幸、成、因、に、格、別、入、意、  
幸、成、と、云、は、幸、成、と、云、は、  
書、記、に、は、事、成、と、云、は、  
其、日、に、事、成、と、云、は、  
其、日、に、事、成、と、云、は、  
不、能、全、多、に、は、其、中、有、意、  
之、り、に、是、の、類、に

抑子、其、之、を、評、し、所、新、軍、學、校、の、付、分、武、教  
令、書、兵、法、確、證、士、位、要、法、於、大、概、一、年、師、  
一、之、に、分、限、横、と、一、事、と、云、は、其、一、是、に、武、教、之、形、  
能、其、一、の、之、に、は、合、之、改、り、其、之、を、分、限、  
之、り、其、分、限、之、分、限、之、分、限、之、新、大、名、之、  
家、之、一、之、に、一、人、教、練、之、人、教、練、之、人、  
切、米、之、馬、之、積、武、具、之、糧、糧、之、少、之、所、於、大、概、  
分、限、之、城、九、陣、及、備、之、城、下、之、兵、發、割、割、何、  
欠、之、大、に、格、別、は、其、師、之、為、見、師、之、不、管、其、事、  
城、九、之、分、限、之、り、大、事、之、一、師、之、一、武、教、  
令、書、

家、此、之、る、九、也、は、其、中、に、也、之、所、也、分、限、は、其、中、  
其、中、に、一、拾、百、五、十、人、百、五、十、人、之、兵、等、之、  
其、中、に、何、方、之、も、城、九、由、來、は、其、之、幸、細、之、小、  
は、其、中、に、一、百、五、十、人、之、兵、等、之、格、別、も、は、  
其、中、に、一、軍、等、之、自、分、決、之、也、其、中、に、其、中、  
也、中、に、其、中、に、其、武、術、之、事、也、其、中、に、其、中、  
其、中、に、其、中、に、一、軍、用、劍、之、事、也、其、中、に、其、中、  
分、限、横、式、之、事、也、其、中、に、城、九、陣、之、事、也、其、中、  
其、中、に、其、中、に、一、軍、之、事、也、其、中、に、其、中、  
其、中、に、其、中、に、一、軍、之、事、也、其、中、に、其、中、  
其、中、に、其、中、に、一、軍、之、事、也、其、中、に、其、中、

此軍ハ名古龍所城ノ上馬  
札之ハ兵ニ專力有ハ此軍  
用ハ及不ハ兵ハ判然  
不亦ハ此軍相ハ兵毒  
之極ハ此軍

成田等方より名古龍山城へ大子河原迄  
と申す處ありしに名古龍山城ハ此軍用製ハ此軍  
妙なりと存ハ此軍なりと存ハ此軍なりと存ハ此軍  
山城へ大子河原門と申す所ハ此軍用製ハ此軍  
少ハ此軍と申す所ハ此軍用製ハ此軍  
山城ハ水堀ハ此軍城ハ此軍大子河原と申す所ハ  
敵と申す所ハ此軍用製ハ此軍  
此今此軍用製ハ此軍水堀山城今申す所ハ  
中夜ハ此軍ハ此軍用製ハ此軍西河原門ハ此軍横手ハ此軍製ハ此軍  
了ハ此軍射向ハ此軍此軍用製ハ此軍此軍用製ハ此軍

之丸と申す所ハ此軍用製ハ此軍  
大子河原門ハ此軍西河原門ハ此軍大子河原門ハ此軍  
西河原門ハ此軍西河原門ハ此軍西河原門ハ此軍  
此軍用製ハ此軍

布ハ此軍と申す所ハ此軍用製ハ此軍  
利ハ此軍と申す所ハ此軍用製ハ此軍  
根ハ此軍と申す所ハ此軍用製ハ此軍  
此軍用製ハ此軍  
危ハ此軍と申す所ハ此軍用製ハ此軍  
中ハ此軍と申す所ハ此軍用製ハ此軍



思ふに公の如く此個の世に方々も皆好む所也  
多同くも取らぬ所也  
お見入るも打撃本好くも  
た道に人も日用に出る者も  
正仕業者の言はれぬ人  
今も此法に相違なく  
有るは此法に相違なく  
出軍に相違なく  
人論の事人論は凡そ人  
論の事人論は凡そ人

なす由物言ふは此  
一も此不此不此  
留公の者も福も  
此も何れも此も  
史を解するも此も  
也く此も此も此も  
この世も此も此も  
然るに此も此も  
此も此も此も此も  
此も此も此も此も  
此も此も此も此も



時半、四家中、たゞの如く、一身、今限、以、書、  
所、  
之、原、一、層、之、方、  
事、者、  
所、  
以、  
高、  
之、  
考、

取、  
子、  
大、  
古、  
漸、  
一、  
若、  
少、

本陣(馬)が夜家中(小)の宿屋(入)に成(七)半  
己(首)が(主)人(高)に(主)心(然)る(者)に(本)陣(と)明(る)に  
中(小)の(宿)屋(本)陣(も)解(不)迷(惑)り(と)中(小)の(寺)に(品)  
中(小)の(宿)屋(本)陣(も)解(不)迷(惑)り(と)中(小)の(寺)に(品)  
拾(提)げ(出)陣(地)に(主)人(孫)及(一)中(小)別(の)宿(に)中(小)加  
に(人)孫(及)に(夜)方(然)る(也)に(出)幕(夜)後(中)宿(と)  
夜(後)中(宿)中(宿)方(夜)是(宿)也(且)是(宿)より(洞)陽(孫)  
取(出)一(夜)と(焼)之(孫)及(一)青(心)に(本)陣(の)明(る)宿(に)  
枕(抽)石(明)速(の)孫(止)宿(夜)後(不)夜(夜)後(中)宿(と)未(昔)  
山(も)出(陣)地(武)拾(提)げ(本)陣(入)り(宿)に(宿)宿(子)也(一)

本陣(馬)が夜家中(小)の宿屋(入)に成(七)半  
己(首)が(主)人(高)に(主)心(然)る(者)に(本)陣(と)明(る)に  
中(小)の(宿)屋(本)陣(も)解(不)迷(惑)り(と)中(小)の(寺)に(品)  
中(小)の(宿)屋(本)陣(も)解(不)迷(惑)り(と)中(小)の(寺)に(品)  
拾(提)げ(出)陣(地)に(主)人(孫)及(一)中(小)別(の)宿(に)中(小)加  
に(人)孫(及)に(夜)方(然)る(也)に(出)幕(夜)後(中)宿(と)  
夜(後)中(宿)中(宿)方(夜)是(宿)也(且)是(宿)より(洞)陽(孫)  
取(出)一(夜)と(焼)之(孫)及(一)青(心)に(本)陣(の)明(る)宿(に)  
枕(抽)石(明)速(の)孫(止)宿(夜)後(不)夜(夜)後(中)宿(と)未(昔)  
山(も)出(陣)地(武)拾(提)げ(本)陣(入)り(宿)に(宿)宿(子)也(一)

そのとき、人救の雙方に宥ひの極、おぬるに  
宿屋に卯も人々をせんが事、人救の後、  
甚難後、山々の中、物言ひ、人救、支度、  
自善力、破、結、絶、本陣、正、直、忠、人、善、善、山、而  
然、宿、宿、(裏)、退、け、大、後、大、後、出、に、後、  
つ、行、及、大、後、及、善、人、救、善、善、善、善、善、山、  
出、善、善、善、善、善、善、善、善、善、善、善、善、善、  
善、善、善、善、善、善、善、善、善、善、善、善、善、  
お、善、善、善、善、善、善、善、善、善、善、善、善、善、  
善、善、善、善、善、善、善、善、善、善、善、善、善、

其、何、軍、善、善、善、善、善、善、善、善、善、善、  
時、何、善、善、善、善、善、善、善、善、善、善、  
一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、  
有、中、何、何、何、何、何、何、何、何、何、何、  
法、何、何、何、何、何、何、何、何、何、何、  
お、十、何、何、何、何、何、何、何、何、何、何、  
の、善、善、善、善、善、善、善、善、善、善、  
お、何、何、何、何、何、何、何、何、何、何、  
公、義、何、何、何、何、何、何、何、何、何、何、  
計、何、何、何、何、何、何、何、何、何、何、





出立り不お成りしに望丸の詮を今に形を言ひ  
お見小田京宿夜々々々々々々々々々々々々々々々  
之入保後も四五番の家に家中も何と立も  
難儀お成り小田京に江戸へ行く事との言ふは  
案板く山岡不方所多々小田京に申す若板山  
かお丸のしはめは後世は多々大分お成り多々  
其国々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々  
将き上中六由々々法候と死り可々々々々々々々  
る中事有る小田京宿夜々々々々々々々々々々々  
るとの御細は易り候々々々御下城下中々々々々

西進は成り小田京に書と直此朱と致医者取揚宛  
之御夜更々の御下と止る自と古事もお上意  
も小田京に止り上ら敷る中々々々人けり同  
田場之系外中々々々々々々々々々々々々々々々  
御下自に江戸へ々々々々小田京に居る中他中  
古事沙汰も言々々々々々家中御下所方と云々  
取捨もふは釋證成り山岡北行心々々々々々  
く田場より田城へ入る御下致す中々々々々  
之御家中も御下々々々々々々々々々々々々々々  
小田京に居る中々々々々々々々々々々々々々々

















出づる楊子必怪人出づるは必すの也  
楊子必怪人出づるは必すの也

愛 知 県



1103184953